

2023年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ボランティア論 (Introduction to Volunteer) 2013-0-13-045					担当教員	米山宗久 (ヨネヤマ ムネヒサ)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	1年次	開講期	前期
科目特性	地域志向科目 / 知識定着・確認型AL / 協同学修型AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要									
ボランティア活動の意義と理念、歴史的変遷、現代的課題について理解を深めると共に、実際の活動に必要な能力や視点を獲得することを目的とする。その上で、個人的志向に留まらず、市民による社会参加のために、個々人が自ら何をなすべきかを模索する契機となることを目指す。また、活動内容の理解を深めるために長岡市ボランティアセンターのボランティア情報の中から一定時間のボランティア体験としてフィールドワークを行う。さらに視聴覚教材の活用、外部講師を招聘し現状把握をする。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
テキストに基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。協同学修型ALでは、外部講師を招聘してディスカッションを行う。また、フィールドワークとして ボランティア体験を実施しプレゼンテーションをしてもらう。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ テキスト (教科書)									
池田幸也 (2022)「ボランティア論 市民社会の創造」大学図書出版									
⑥ 参考図書・指定図書									
早瀬昇 (2018)「参加の力が創る共生社会 市民の共感・主体性をどう醸成するか」ミネルヴァ書房 大阪ボランティア協会 (2006)『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規出版									
⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
(i) ボランティア活動の意義と理念を理解する。 (ii) ボランティア活動の課題を理解する。 (iii) 実際の活動に必要な能力や視点を理解する。 (iv) 市民活動を理解する。 (v) 共生社会の必要性を理解する。									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) ボランティア活動の意義と理念を理解する。	地域共生社会実現を踏まえて、住民が主体的に参加する意義や理念を説明できる	地域共生社会実現を踏まえて、住民が主体的に参加する意義を説明できる	地域共生社会実現を踏まえて、住民が参加する意義や理念の資料等を見ながら説明できる	地域共生社会実現を踏まえて、住民が参加する意義の資料等を見ながら説明できる	地域共生社会実現を踏まえて、住民が参加する意義の説明を教員等の支援を受けても説明できない
(ii) ボランティア活動の課題を理解する。	住民が主体的に参加する意義を踏まえて、ボランティア活動の社会的障壁を説明できる	住民が主体的に参加する意義を踏まえて、ボランティア活動の障壁を説明できる	住民が主体的に参加する意義を踏まえて、ボランティア活動の社会的障壁の資料等を見ながら説明できる	住民が主体的に参加する意義を踏まえて、ボランティア活動障壁の資料等を見ながら説明できる	住民が主体的に参加する意義を踏まえて、ボランティア活動課題の説明を教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 実際の活動に必要な能力や視点を理解する。	公私協働の視点を踏まえて、無償と有償のボランティア活動の多様性を説明できる	公私協働の視点を踏まえて、無償と有償のボランティア活動を説明できる	公私協働の視点を踏まえて、無償と有償のボランティア活動の資料等を見ながら説明できる	公私協働の視点を踏まえて、ボランティア活動の資料等を見ながら説明できる	公私協働の視点を踏まえて、ボランティア活動の説明を教員等の支援を受けても説明できない
(iv) 市民活動を理解する。	市民活動を踏まえて、市民の参加の歴史や具体的な活動内容を説明できる	市民活動を踏まえて、市民の参加の歴史や活動内容を説明できる	市民活動を踏まえて、市民の参加の歴史や活動内容の資料等を見ながら説明できる	市民活動を踏まえて、市民の参加の活動内容の資料等を見ながら説明できる	市民活動を踏まえて、市民の参加の説明を教員等の支援を受けても説明できない
(v) 共生社会の必要性を理解する。	共生の必要性を踏まえて、地域、企業、行政の協働の意味や推進の必要性を説明できる	共生の必要性を踏まえて、地域、企業、行政の協働の意味を説明できる	共生の必要性を踏まえて、地域、企業、行政の協働の意味の資料等を見ながら説明できる	共生の必要性を踏まえて、地域、行政の協働の意味の資料等を見ながら説明できる	共生の必要性を踏まえて、地域、行政の説明を教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計

総合評価割合	40%	15%		15%	20%	10%		100%
(i) ボランティア活動の意義と理念を理解する。	8%	3%		3%		2%		16%
(ii) ボランティア活動の課題を理解する。	8%	3%		3%	10%	2%		26%
(iii) 実際の活動に必要な能力や視点を理解する。	8%	3%		3%	10%	2%		26%
(iv) 市民活動を理解する。	8%	3%		3%		2%		16%
(v) 共生社会の必要性を理解する。	8%	3%		3%		2%		16%
フィードバックの方法	レポートやボランティア体験はプレゼンテーションを行い、小テストは解説を行う。							

⑩ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
社会福祉主事任用資格の取得を目指すなど、公務員や福祉関係の職業等を希望している学生は必ず受講してもらいたい。レポートと小テストを合わせて、7回程度行う。外部講師招聘時は予習として課題を提示する。ボランティア体験では、自分でボランティア先と訪問調整を行って現状を把握する。問題意識を持った学生に履修してもらいたい。必ずテキストを購入すること。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間 (分) (※特別な持参物)	
1	オリエンテーション	ボランティア活動の知識と理解	60分
2	人間と現代社会	縁の変容の理解	180分
3	国家観の変容と市民社会	コミュニティと福祉国家の理解	180分
4	ボランティアと市民	ボランティア活動の理解	180分
5	ボランティアの歴史	人権とボランティアの理解	180分
6	家族とボランティア活動	家族形態とボランティア支援の理解	180分
7	障がいとボランティア活動	障がい者とボランティア支援の理解	180分
8	小テスト	1回～7回目授業のまとめ	180分

9	生活困難者支援とボランティア活動	ホームレスとボランティア支援の理解	180分
10	市民活動（消防団）◆	消防団の活動の理解	240分
11	好きなことを生かすボランティア活動	余暇とレクリエーションの理解	180分
12	まちづくりとボランティア活動	市民と行政の協働の理解	180分
13	ボランティア活動と市民社会	共生社会実現に向けたボランティア活動の理解	180分
14	ボランティア体験報告（1）	ボランティア体験集約	240分
15	ボランティア体験報告（2）	ボランティア体験集約	240分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型ALを採用する。レポート・小テスト・ボランティア体験を行い、さらに毎回授業内で課題を提示する。協同学修型ALでは、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」「長岡市自殺対策連携会」「長岡市ボランティアセンター推進会議」などの委員を歴任している。

実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、社会に起きている事項について、客観的視点、主観的視点、支援者の視点、住民の視点など多角的視点から社会を見ることを学生に伝えることができる。

たとえば、家族関係が希薄化する原因、家族内で起こっているDVや児童虐待の現状、課題と対策の必要性を伝えることができる。さらに行政として対応した実体験として、相談機関や保護機関を理解してもらうための必要性も伝えることができる。

また、地域福祉計画や地域福祉活動計画においても、市民が行う活動の現状と課題・問題点が明記さ

れている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。

さらに、ボランティア活動を積極的に行い、学生の主体性やコミュニケーション能力の向上を支援することができる。